

JA 0051764

APR 1977

51764

X 392/483

(54) HEATING DEVICE FOR CAR WASHING WATER

(11) Kokai No. 52-51764 (43) 4.25.1977 (21) Appl. No. 50-127294

(22) 10.24.1975

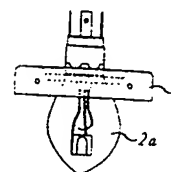
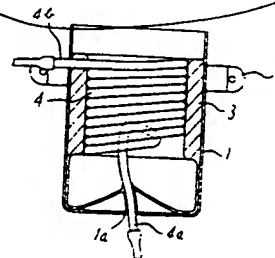
(71) NIPPON BIRDS K.K. (72) TAKAYUKI NISHIMURA

(52) JPC: 92(5)A41

(51) Int. Cl. B08B3/02

PURPOSE: To provide a heating device for car washing water, in which the water for washing the front glass of a car is heated to a suitable temperature, by lighting an electric lamp in a water reservoir, so as to facilitate flow-down of the used dirty water and to prevent the same from freezing.

CONSTITUTION: Provision is made of a cover 2 which is fitted in the open end of a cylindrical reservoir 1 and which is equipped with an electric lamp 2a. A spiral pipe 4 is mounted in the reservoir 1 in a spiral shape around the electric lamp and within an insulating member 3 of rubber of the like and has its both ends protruding to the outside of the reservoir. One end 4a of the spiral pipe is connected to the supply side of a washing water supply pipe of a front glass washing device, and the other end 4b is connected to the discharge side of the water supply pipe, so that the washing water in the reservoir may flow into the spiral pipe 4 to be heated by the electric lamp 2a. The water thus heated can be injected from the nozzle.



BEST AVAILABLE COPY



第 号

昭和 50 年 10 月 24 日

特許庁長官 殿

1. 発明の名称

自動車用洗淨水加熱装置

2. 発明者

住所 神奈川県横浜市南区水田町 816 番地

雨水田団地 1-3-901

氏名 西 村 孝 之

3. 特許出願人

住所 大阪府大阪市北区鶴之上町 52-1

名称 日本パーズ株式会社

代表者

豊 島 猛

方式 特許

4. 代理人

住所 〒105 東京都港区西新橋 1 丁目 2 番 9 号

三井物産館内 電話 (591) 0261 番

氏名 金 丸 義 男 外 4 名

金丸特許事務所内 (6145) 氏名 朝 内 忠 夫 外 3 名

50 127294

明 細 書

1. 発明の名称 自動車用洗淨水加熱装置

2. 特許請求の範囲

円筒状容器、この容器の開放端に嵌合されるようにされかつ電球を備えた蓋、およびその電球を囲むようにらせん状に巻かれて前記容器内に断熱部材を介して配置され、両端部が容器から突出するらせん管から成り、この管内を流れる洗淨水を電球により加熱するようにした自動車用洗淨水加熱装置。

3. 発明の詳細な説明

自動車の前面ガラスの洗淨は、エンジンルームに設けられた貯水槽から延びる管を経て洗淨水をポンプによりノズルから噴射して行なわれている。この場合洗淨水の温度が低いために汚れが落ちにくいばかりか、特に冬期や寒冷地においては洗淨水がガラス面上で凍結して視界が妨げられ、運転者にとって非常に危険となつた。

この発明は上記不都合をなくすようにしたもので、洗淨水を適当な温度に加熱するようにしたも

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 52-51764

④ 公開日 昭 52.(1977) 4.25

② 特願昭 50-127294

③ 出願日 昭 50.(1975) 10.24

審査請求 有 (全 3 頁)

庁内整理番号

6410 34

⑤ 日本分類

925A41

⑥ Int. Cl.²

B08B 3/02

のである。

次にこの発明をその図示実施例について説明する。

図示された装置は、金属製円筒状容器 1 の開放端に嵌合するようにされかつ自動車用電球 2 a を備えた金属製の蓋 2、その電球 2 a を囲むようにらせん状に巻かれた前記容器内に断熱部材 3 を介して配置された金属製のらせん管 4 から成る。

前記電球 2 a はらせん管 4 を加熱することによつて、その端子はコンセント 5 に接続されてエンジンルームの計器板などに設けられたスイッチ 6 によつて制御されるようにされている。また前記管 4 の両端部、4 b はそれぞれ容器 1 の開口 1 a、1 b から突出すると共に端部に口金 6 a、7 a を備えた一対の管 6、7 が接続され、従つて従来の前面ガラス洗淨装置の洗淨水供給管を切断して管 4 の一端 6 a をその供給側に、また他方の端部 7 a を排水側に接続できるようにされている。このため貯水槽からの洗淨水はこのらせん管 4 内に流入し、電

球2aにより加熱されてノズルから噴射されることが出来る。この装置は容器の取付部8によりエンジンルームの適当な箇所に取付けられる。

従つて前面ガラスを洗浄する前にスイッチを作動させて2〜3分間程度電球を点燈させれば、洗浄水を適当な温度に加熱することができる。

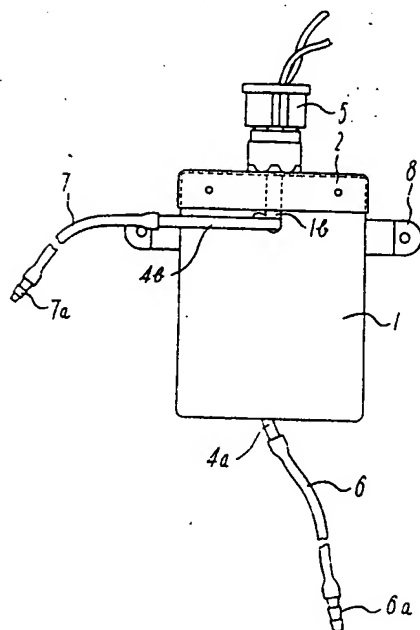
また切換弁を用いて前照燈の前面ガラスなどにも加熱された洗浄水を供給することができ、その上蓋を容器から取外して電球を点燈させれば、エンジン検査用の照明器具としても用いることができる。

このようにこの発明によれば、自動車の前部ガラスなどを洗浄する洗浄水を適当な程度に簡単に加熱することができ、汚れを落ちやすくすると共に洗浄水の凍結を防ぐことができる。

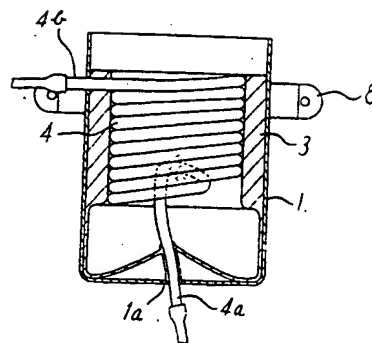
4 図面の簡単な説明

第1図はこの発明による自動車用洗浄水加熱装置の立面図であり、第2図はらせん管を備えた容器の縦断面図であり、第3図は電球を備えた蓋の立面図である。

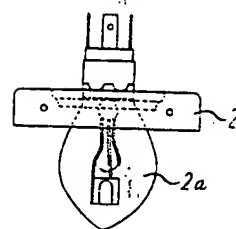
第1図



第2図



第3図



特開 昭52-517
1...円筒状容器、2...蓋、3...電球
4...断熱部材、5...らせん管、6a、6
出口。

代理人	朝	内	忠	夫
同	八	不	田	茂
同	浜	野	孝	雄
同	森	田	哲	二

特許 452-51764 (3)

5. 添附書類の目録

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 委任状 | 1 通 |
| (4) 願書副本 | 1 通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1 通 |

6. 前記以外の発明者、代理人

(1) 発明者

(2) 代理人

住所 東京都港区西新橋1丁目2番9号
三井物産館内 金丸特許事務所内

氏名 朝 内 忠 夫

同所 八 木 田



同所 浜 野 孝 雄



同所 森 田 哲 二

